

2016年度グリーンアジア国際セミナー International Forum for Green Asia 2016

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター准教授
古野 裕史

平成28年12月1日(木)に筑紫キャンパスの総合研究棟(C-Cube) 筑紫ホールにおいて、グリーンアジア国際戦略プログラム(グリーンアジアプログラム)の国際セミナーを国内外から128名の参加者を得て開催した。

午前中は谷本潤教授(プログラムコーディネーター)の開会挨拶に続き、国内外の企業・研究所の第一線でご活躍の3名の先生に講演をお願いした。量子科学技術研究開発機構那珂核融合研究所の花田磨砂也先生には核融合エネルギーの基礎から最新の研究までについて解説いただいた。PT Bumi Resources Minerals(インドネシア)のSuseno Kramadibrata先生からは、インドネシアの鉱山開発の状況と岩石力学研究の意義と成果についてのお話を伺った。最後に新日鉄住金エンジニアリングの加藤健次先生には、コークスの製造や石炭のガス化などを例に、炭素利用の最先端についてご紹介いただいた。

午後からはポスターセッションと学生セッションを実施した。ポスターセッションではグリーンアジアプログラムの一貫制博士課程3年生から5年生(博士後期課程に相当)が博士論文研究として実施してきた成果を発表した。発表件数が36と比較的多かったこともあり、1時間のセッション時間を、ポスター番号の奇数と偶数で分けて30分ずつ発表する形式をとった。そのため発表時間に物足りなさがあったものの、の中で活発な質疑応答がなされていた。

その後の学生セッションでは、プログラムコース生全員が8つのグ

ループに分かれ、コース生の担当者が事前に選定した4つのテーマについて議論し、その結果をグループ代表者がまとめて口頭発表した。限られた時間の中で多様な観点からまとめられた発表に対し、様々な意見が出されていた。本セッションについては13~18ページに詳細報告されているので参照されたい。最後に原田明教授(プログラム責任者)からの講評と挨拶で会を閉じた。

本セミナーは一貫制博士課程3年生から5年生のグリーンアジアプログラム独自科目である「国際演習B」の一部としても実施され、特に一貫制博士課程4年生(博士後期課程2年生)は「国際演習B2」として講演者の選定、紀要原稿の取りまとめ、学生セッションの事前のテーマ選定、当日の講演・発表の司会進行など、会の企画、準備、運営全般に携わった。

